

女性リーダー座談会(2/2)

現在お茶の水女子大学では、学長のほか、部長クラスポストの半分近くを女性が占めています。この女性リーダーの皆さんに集まっていただき、お茶大の現状や課題について話し合っていました。座談会は平成十五年九月九日の夜、学長室で行われました。

出席者

- 本田 和子 学長
- 篠塚 英子 学長補佐(今回の司会)
- 波平 恵美子 ジェンダー研究センター長
- 平野 由紀子 人間文化研究科長
- 内田 伸子 子ども発達教育研究センター長
- 室伏 きみ子 理学部長ライフワールドウォッチセンター長

篠塚 法人化後の中期計画では女子大として行く方向ですが、その後の皆さんの展望をお聞かせ願えますか。

本田 今は乗り切ったと思っておりますが、十年先は読めません。(中略、前号に掲載)お茶大は小さいけれども日本にあって然るべきだという認識を、行政ははじめ一般納税者に持っていただければ、その後も大丈夫かなと思っております。国際的な拠点として、ジェンダー研究とか発達研究を考えたなら、お茶大抜きでは語れないみたいにしてしまえばよい、そういう形に持っていく事が必要なと思っております。



(以上、再掲)  
室伏 お茶大に対する外の方々の評価が思ったより高く、暖かく見守って下さるといった風ですので、私は今までの資産を十分生かして、更に発展させて行けば二十年ぐらいは持

つだろうという気がしております。ジェンダーや発達研究がお茶大の顔になっていくことは確かですし、顔になれる分野は他にもあると思うのです。それらを看板にして、そこでしっかりとした研究も続けていければよいと思います。



室伏理学部長

また、お茶大で育ててきた女性リーダーというのはいずれ半端ではないですね。一昨年(平成十三年)に理学部卒業生の活動状況を調べたのですが、皆さん非常に輝いています。その事をまとめてグラフィックを作成して、今年(平成十五年)の日韓女子大学フォーラム(これは梨花女子大と日本女子大、お茶大の理学部の間で開かれているフォーラムですが)で発表しましたら、皆さん非常に素晴らしいと、うらやましがって下さいました。今まであまり外に対して宣伝してこなかった大学ですから、こういうことを一般の方々に認知して頂いたら、お茶大のファンを増やす事ができるかなと思うのです。

篠塚 今の話で、アカデミック分野で活躍している方は確かに多いんですけど、奈良女とお茶大の卒業生のライフコースの調査をした時に、三分の一が働いている、三分の一がパート・アルバイト、三分の一が専業主婦という事でした。専業主婦だった人も最初は就職するのですが、それが長続きしない、これをもったいない。多くが学部卒業生で、民間に行っても長く役に立つような人材に育ててくちやならないと思えます。

本田 専業主婦が悪いとは思いませんが、そこで、不満を持って、本当は働きたいんだけど思っているか、そこでキラキラした生き方を探せるか、そういう事もフォローする必要がありますか、と思います。再び学びたいと言う方達に、大学が門

戸を開く必要がありますね。

本田 キャリアアップ支援やチャレンジ支援はしなければいけないけれども、それをお茶大がアタフタとする事はないんじゃないかと思っております。あわてて追いかけても、力を分散するだけです。お茶大が持っている資源をどこで一番発揮できるかを考えてデザインする事が必要だろーなと思います。

篠塚 そうですね、そうなるかと、どうして大学の対応は時間がかかると思えます。それで、即効性を考えて学術事業会のようなものを作ったのです。それによっているいるとトライできますからね。卒業生もずいぶんいろんな形で活躍しております。

平野 学科の枠を越えて、出合える場になっていきますね。お子さん三人もいる方も働いて下さってるし。

内田 通信制の大学院があつちこつち出ていますけど、あのやり方で十分な指導が出来るかとも心配しています。また、状況の変化に即応して組織を変えようとしても、各部署の利益代表という観点で対応しようとする事が多く、大学全体の大局的な視点からの対応ができてなくなっているように思われます。



本田学長

本田 今、ものすごく早く動きますよね、こんな小さい大学なのに伝わっていかないんですね。時々とんでもない事を聞きにいらいらするんですよ。それと、日々ちよつと変わる所もありますよね。そういう事をどうやって伝えたらよいかと思っております。情報の温度差が大きいと思っております。

篠塚 学長が大変でなければ、原稿を書いて秘書を通じて全教職員に電子メールを出しちゃうというのはどうでしょうか。

平野 教授会の冒頭でね、テレビで、部長会議の報告なんか、同じものを流しちゃうと

かいか。人が中に入って報告するより、学長が直接言つて下さった方が正確に伝わる。小さい大学なんですものね。

篠塚 でも、他大学の説明を聞きましたら、法人化に向けて、情報伝達にはどこも苦労しているのですよ。うちはまだよい方だと。内田 情報を皆さんに伝える仕組みが必要ですね。私がお茶大の今後を、あまり楽観的には捉えていないのです。多分お茶大は毎年1%、約七千万円ずつ運営費交付金が削減されていく(注)。国立博物館の様に二〇%以上減らされた所もあります。その状況の中では組織を見直し、本学の特徴を出していくための組織強化と同時に、基礎研究で時間のかかる領域や、工学系のようにすぐお金がとれない領域も維持し地道に育てていかなければ。そのための組織の見直しができないと六年ちやんと維持できるか難しい気がします。

本田 私達四人はお茶大育ちなので、共学でお育ちになつた方々に意見をいただいた方がいいと思いますよ。  
篠塚 女子大に勤めた事は、違和感なくすんなり入れました。ただ、学生が女性だけで勉強するのは困るなと思います。時々男子学生を一人二人入れたりと、今までたくさん話をしていたのに、とたんに話せなくなつちやうのですよ。男性と考え方の違いを対等に議論する事に慣れないといけませんね。問題は、社会に出た時の揉まれ方が違います。卒業時の職業選択の時からかなり差がありますよ。その他アカデミックな面は全然差はありません。問題がそれだけなら女子大のままで授業形態の工夫でなんとかなるのですが、一人では限界がありますね。通常授業でも何らかの形で共学大学と交流したり、年に一度くらいは(男子学生との)討論の場が必要ですね。



篠塚学長補佐

私が工夫していたのは年一回夏休みに他大学の男子学生たちと合宿をするという事です。波平 これだけ共学の門戸が開いた中で、それでも女子大に来ようと選択をする母集団が変わつて来ているんです。優秀でまじめなんです。良質の野心がありません。居心地のよさを求めている学部学生が非常に多いと思います。ですから、もつと伸びるはずなのに、なぜかハードルが越えられなかつたり、自分で天井を決めてしまつて伸びようとしない学生が多いです。ですから、よい意味での競争心をおおるような、また、全学生に見える形で、優秀な学生を褒め称える場があつたらいいと考えております。それとお茶大の学部学生はマナーがよいです。いろんな面で言わなくても、察して理解する部分をたくさん持つています。ですから、そうでない人達の中に入つて勉強や仕事をすると、もたつに渡り合つていく力をつけて欲しいです。そして競争をおおれず大学院に上がつて来て欲しいです。



波平センター長

内田 心理学コースは、学部のトレーニングをそのまま持ち込んで修士に行けば、本当によい研究ができる人がたくさんいるんです。大学院に上がつて来てくれるのは、やっぱり三分の一ですよ。もつたないです。ただ、女子大の環境で伸びると、共学に行つて他流試合した方がよいのと、二つのタイプがあると思われれます。  
本田 アメリカでデータが出てた事がございましたね。女子大で育つたから主体的にものを考えて、表現力やプレゼンテーションする能力が伸びて、男の世界に入つても困らないという、ただ、全てがそうではないという。育て方もあるんでしょうけど。ところで、理学部の生物や化学は八〇%ぐらい大学院へ上

がりますよ。平野 また話がずれますけど、日本語教育の修士課程は学部の専門がどういうバックグラウンドでもいいという事になっていますよ。その中で、本郷運子先生(元文教育学部教授平成十四年退官)は「お茶大の卒業生は力がある」とおっしゃるのね。ある時まで家庭や別の所に就職していたとか、違う事をしていて、また勉強しようという時に。  
篠塚 話を戻して、平野先生、お茶大の希望、展望、あるいは暗澹たる不安でも一言お願いします。

平野 そうですね、お茶大は、いつもいづもどうして国の税金をいただいで女子大が必要かって、問われていましたよ。それをしのでいいのでやってきたわけです。その中で本田先生が、私達卒業生の中で初めて学長になられたでしょう。鳥を立ち去る最後の女王になつたらどうしようと思つていました。したら先生は、見事に、アフガンの事にして、女子教育の視点の中にお茶大を導きましたよ。今までは「おんな子ども」の領域として、軽んぜられていた側面を二十一世紀は積極的に探求する時代でもあるし。本学の経験を積極的に今の時代に生かして。  
室伏先生のように楽観的に言つて下さる同世代の方がいると、私も希望が持てるかなという感じね。

本田 でもね、最後の女王だったんですよ。就任早々の頃は「女子大の使命は終わつたんじゃないか」とか「あなた、卒業生だから、綺麗に幕を引いて下さい」なんて言う人達がいたんですよ。それでなんかむきになって、やれる事は全部いたしましたよ、みたいな事、やつたんですよ。

篠塚 平成十三年二月に学長に就任されて、六月に、ちょうどトップ三〇の話が出て、危機感がすごかたかまつている中、翌一月に急にアフガン支援の話が持ちあがつて。  
本田 そうなんです。(学長就任して)最初

(注)十二月段階では運営費交付金は1%、一億四千万円カットが見込まれている。

の国立大学協会の総会がそれ(トップ三〇の件)だったんです。アフガンの件は藤枝先生様々でね。それからCOEでしょ、なんかとにかくラッキーが続きました。もちろん、皆さんにお力がおありになったからなんですけどね。そうするとね、お茶大は、あの規模でやれるじゃないか、COEは二つとるし、何でも、お茶大は小規模大学の中でダントツ光っていて、希望の星だそうなんです。

内田 「大変なんですよ、うちの大学は」って言うと、皆さん「そんな事ないでしょう」とおっしゃるんですけど。でも着々と学内で準備していかないと、厳しいと思います。御船先生と竹村先生と私の三人で、天野郁夫先生(国立学校財務センター研究部長)に財



センター長 内田 政面のお話をうかがって、これは大変だから評議会の先生方にも知っていたらいいなと、その後平成十四年七月、お呼びして講演して

いただいたんです。本田 天野先生が強く主張されていたのは、研究中心、教育中心、専門養成の大学種別化だったんですよ。ただ、お茶大は、研究もそこそこできる、教育だって大切にしたいと思ってる、専門職大学院はちよつと無理だと思っけれど、臨床心理士・遺伝力カウンセラーとか、専門家も育てたりしている。そうすると非常に曖昧な大学になるんです。その中で特色を出すためにはどうしたらよいらうかという所、これは非常に苦労したんです。まず研究と教育のよい点の強調は大切です。そして両方をバランスよくそれなりのレベルでやっていく事。そしたら、周りから、ああいう小さい組織だからできるのかな、あれはモデルになるかなと思われ、事を期待してるんですけれどもね。種別化の話は底流にまだあると思います。

平野 話がまた戻るようですね、卒業生がね、先生に会いに行くって時に、そんなに嬉しそうに顔するなんて信じられない、って言われるんです。だから学生にとつてみるとよい師に出会ったっていう大学みたいなのね。ただ、そういう卒業生や学生と一緒に何かするっていうのができないんですよ、今、忙しくて。それが、一番心配。

本田 それでね、二年なら二年間、観念して忙しくしていただいて、あとはゆっくり教育や研究に力を注いでくれたらと、組織を検討しているんですけどね。

内田 その新しい組織がちゃんと機能するためには、状況の変化についての情報を構成員みんなが共有できる状況、調べればどこかに開示されている状況の中で対応していかないと。新聞を作るってアイデアもありましたね。

本田 附属高校で申し上げたんですが、方向は示さなければいけないので、示しますが、中身はご自由に検討なさって、やりにくいと思ったら違う提案をなさって下さってよいんですよ、と申し上げたら、びつくりなさってました。部局長会議が力を持って、そこでの決定が硬直化して取られているんですよ。篠塚 新聞も大事ですけど、今はメールが何かで、部局長会議や評議会で決まった大事な事は直接全員に行くのが一番よいと思うんです。企業はみんなそうやってるのですね。

本田 来年から秘書室のようなものが作られるので、そういう事をやって下さる方がいれば、より機能するでしょうね。

篠塚 最後にちよつと私から。先程学長から出ましたが、今後の大きな要因の一つに財政基盤の事がありました。そこでとにかくお茶の水芸術事業会というものを創りました。そ



平野 研究科長

の会員に卒業生はもちろんですが、女高師の方に声をかけたら、入会増加の貢献では驚くべきものがあります。その中のお一人が生前遺産をお茶大のために残したいという申し出がありました。その方はアフガンの女子教育支援にご賛同なさっているのです。このような動向は色々な所で公表すれば、次に続く方が出てくると思います。この方は女子の教育に一番の関心があるようです。これから女子大でいく事になっていきますけど、その先についても何か指針を出さないと難しいかなと思います。

波平 卒業生の方から、お金を集める時に、明確な目的を示して欲しい。事業会だ何に使用されるか分からない、ということ聞きました。それと、私は調査のために全国を回っていますが、地方経済の落ち込みがとてひどいです。今までお茶大に学生を送っていた方々が都会に子供を出せなくなっているんです。そこで一番困るのが住居費で、月五万円くらいの寮の部屋が三百とか五百とかあれば、それをセールスポイントに学生を呼べると思います。

本田 そうですね、少し高くして広めの部屋もちよつと作って。あと、お金をどうするかって所ね。学術事業会だと、募金の時に特定の目的をあまり出せないんですよ。

篠塚 そうですね、NPO法人では限界があるので、いずれ後援会組織を創りたいと思っています。また、財政基盤に関しては課題もありません。予定した時間も過ぎていきますので、話は尽きないのですが、これでおしまいにします。ありがとうございます。(完)

